

「大学評価担当者集会 2013」に係る実施報告

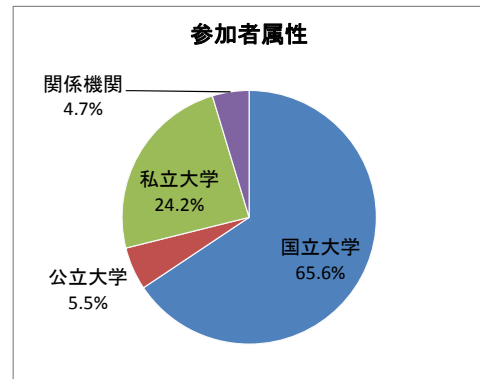
平成 25 年 8 月 22 日（木）～23（金）の両日にわたって、大学評価コンソーシアム主催、国立大学法人神戸大学共催による「大学評価担当者集会 2013」を神戸大学六甲台第二キャンパスにおいて開催しました。

【会場】

- 神戸大学百年記念館・留学センター
- 瀧川記念学術交流会館

【参加者数】

128 名（参加登録者数：133 名）



国公立大学の教職員、及び民間企業を含む大学関係機関から総勢 128 名にご参加いただき、大学評価及び Institutional Research (IR) に係る内容を中心に、以下の講義及び研修を実施しました。

8月22日（木） 13：30～

◇評価・IR シンポジウム「大学に求められる IR 機能の実現に向けて」（13：30～17：10）

神戸大学主催、大学評価コンソーシアム共催でシンポジウムを開催されました。日本型 IR のあるべき姿、それを担ううえで不可欠となる人材や中間組織の充実等、日本の大学において IR を普及・定着させるうえでの展望と課題について、活発な議論が行われました。

■大学評価コンソーシアム総会（17：20～17：40） 参加者数：48 名

シンポジウム終了後は、「大学評価コンソーシアム総会」を開催し、平成 25 年度事業報告（予定を含む）、過去 1 年間の幹事会及び運営等について、代表幹事から報告を行いました。また、監査人からの監査報告、監査人の交代について会員のみなさまにお諮りし、ご了承いただきました。これを受け、会則に則り前任者の残任期間を引き継ぎ、監査人を交代しました。現在の大学評価コンソーシアムスタッフは以下のとおりです。

幹事（9名）

- 浅野 昭人（立命館大学 学生部 次長）
- 浅野 茂（大学評価・学位授与機構 研究開発部 准教授）
- 大野 賢一（鳥取大学 大学評価室 准教授）
- 小林 裕美（大分大学 国際交流課 課長）
- ◎小湊 卓夫（九州大学 基幹教育院 准教授）
- 佐藤 仁（福岡大学 人文学部 准教授）
- 嶋田 敏行（茨城大学 評価室 助教）
- 関 隆宏（新潟大学 企画戦略本部評価センター 准教授）

難波 輝吉（名城大学 薬学部・大学院薬学研究科事務室 事務長）

◎は代表幹事、○は副代表幹事。

監査人

大川 一毅（岩手大学 評価室 准教授）

◇情報交換会（18：00～20：00）

総会終了後は、58 名の方の参加を得て情報交換会を催しました。ネットワーク作りの場としてのみならず、それぞれの業務に係る情報交換、シンポジウムや分科会の話題等、終始会話が途切れることなく、終了時間を迎えました。

8月23日（金） 9：30～16：00

◇全体会（9：30～9：50）

大学評価担当者集会 2013 の開催にあたり、正司健一（神戸大学理事）及び小湊卓夫（大学評価コンソーシアム代表幹事）から挨拶があり、浅野茂（大学評価コンソーシアム副代表幹事）が本集会の趣旨、プログラム等について説明を行った。

○第一分科会「評価と IR：活用編」 参加者数：59名

担当：鳶田敏行（茨城大学）、浅野茂（神戸大学）、浅野昭人（立命館大学）、佐藤仁（福岡大学）、末次剛健志（佐賀大学）、藤井都百（名古屋大学）、本田寛輔（メイン州立大学オーガスタ校）

大学評価業務に一定期間携わっている（あるいは過去に携わった）方を対象に、昨年度までに行った「データ収集編」及び「分析編」の成果を踏まえ、「評価と IR」と題した講義（2件）を行った。また、参加者の所属機関において大学の諸活動の改善を促進し、評価業務の高度化を図るための相互討論を行いました。

具体的には、昨年度指摘された点を改善した評価報告書に基づき、課題や支援（サービス）対象の洗い出し、意思決定支援の内容と方法、課題の解決策等について、10 の班でグループ討議を行っていただきました。その結果をポスターにまとめていただいたうえで、目標・計画ごとに各班が作成したポスターの概要及び検討結果を発表していただき、意思決定に必要な「支援のあり方」及び改善に向けた解決策等を参加者と共有しました。



○第二分科会「初めて評価を担当される方へ」 参加者数：25名

担当：関隆宏（新潟大学）、大野賢一（鳥取大学）、藤原将人（立命館大学）、長崎英助（神戸大学）

大学評価の実務経験がほとんど無い初心者を対象に、「評価とは何か」という基本的な観点の習得を目標に、参加者の所属機関において自己評価書を作成する際に求められる着眼点・発想法・留意点を身につけるための講義及び演習を行いました。

具体的には、導入レクチャーとして大学評価の観点や評価書を作成する際のポイントについて説明し、認証評価や目標（計画）に基づく自己点検・評価をテーマに、5つの班に分かれて、架空の大学事例に基づいた演習、結果発表及びポスターセッションを行い、参加者と成果を共有しました。



○第三分科会「自己評価能力を高めるための目的・計画と指標の作り方 中級編（ステップ3）」 参加者数：24名

担当：田中弥生（大学評価・学位授与機構）、小野宏（関西学院大学）、渋井進（鹿児島大学）、山崎その（京都外国語大学）、佐々木基充（神戸大学）

大学評価の実務経験が長い方や企画立案業務に携わっている方を対象に、昨年度のステップ2（目的の整理、計画の作り方）までの成果を踏まえ、計画の進捗状況を把握するための指標設定に関する講義及び演習を行いました。

具体的には、適切な評価が行えるように整理するための手法（Evaluability Assessment）の概要説明及び指標の立て方について説明しました。また、4つの班に分かれて、架空の大学事例に基づいた演習及び結果発表を行い、参加者と成果を共有しました。最後に、指標設定における妥当性及び信頼性に関する講義を行い、発表結果を絡めた討議も行いました。



○第四分科会「学生調査：入門編」 参加者数：20名

担当：江原昭博（関西学院大学）、小湊卓夫（九州大学）

学生調査の経験がほとんど無い大学評価の担当者を対象に、学生調査における基礎的事項の理解を目標に、調査の設計、実施方法、調査結果の活用に関する講義及び演習を行いました。

具体的には、学生調査の目的、設問や調査票の設計、効率的な実施方法の選択、分析手法等について説明しました。また、参加者から寄せられた事例を演習問題として採用し、4班に分かれて、グループ討議による情報共有を行いました。



※ 大学評価担当者集会 2013 の会場及び実施風景

